

いけんひろば
国立公文書館の展示を見てみよう！
フィードバック資料

2024年10月19日(土)
対面型

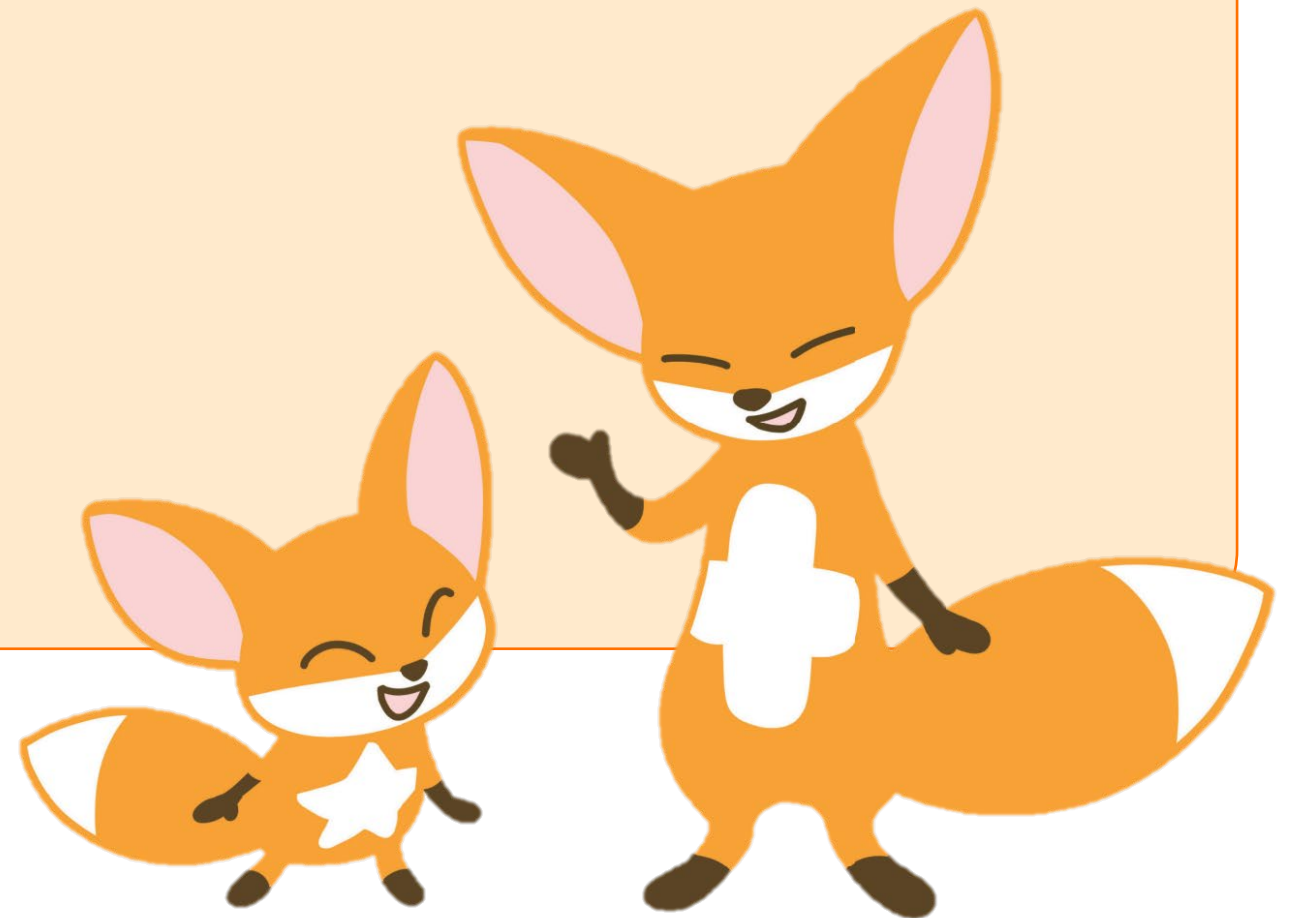
2024年度「こども若者★いけんぷらす」事業

1. 開催概要

2. 意見の活用について

- ①展示基本設計への意見の活用について
- ②現在の本館への意見の活用について
- ③既に対応済みの意見について
- ④今後に活用を検討する意見について

参考資料



テーマ	国立公文書館の展示を見てみよう！
担当省庁	内閣府
参加対象者	ぷらすメンバーのうち、小学5年生～高校生世代
テーマ説明	国立公文書館とは、国の大切な文書を保存している施設で、公文書の大切さを伝えるための展示を行っています。約6年後に国会議事堂の近くで、新館が開館する予定です。 みなさんには、現在の国立公文書館の展示を見学いただき、さらに公文書の実物を見たり、触れたりした上で、新館の展示を考えるために①公文書について、分からないこと、もっと知りたいと思うこと、②国立公文書館について、分からないこと、もっと知りたいと思うこと、③新館でどのような展示があると良いかなど、意見を聴かせてください。 博物館などの展示、国の歴史、公文書・昔の記録などに興味がある人はもちろん、公文書や国立公文書館を全く知らない人の参加也大歓迎です。
開催日時	令和6年10月19日（土）14：00～16：30
開催場所	国立公文書館
参加人数／グループ数	➤ 1班・・・小学生5名 ➤ 2班・・・中学生5名 ➤ 3班・・・高校生世代5名

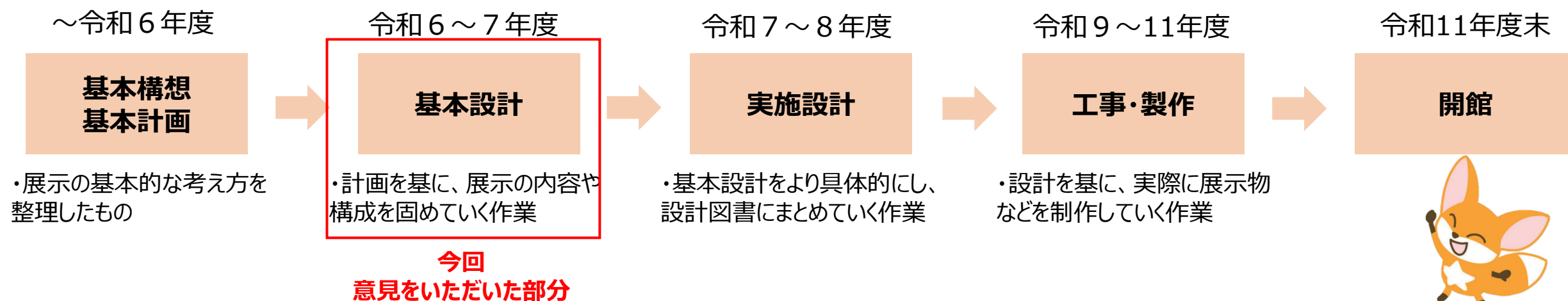
今回のいけんひろばでいただいた意見は、
新国立公文書館展示基本設計
について考えるときに活用いたしました。



新国立公文書館展示基本設計について

- ・令和11年度末に、国会議事堂の近くに**国立公文書館の新館が開館予定**です。
- ・新館の「展示室」は、**現在の国立公文書館本館の展示スペースより広くなります。**
- ・「**こども・若者に分かりやすい展示**」、「**「関心」「理解」「学び」につながる展示**」などの考え方で、公文書の理解を深めてもらうため、こども・若者に向けた解説、体験型展示などを検討しています。
- ・今回、令和7年6月に「**新国立公文書館展示基本設計**」（実際の展示の基となる展示構成、ストーリー、展示物などをまとめたもの）を取りまとめるなかで、いただいたご意見を参考にしました。

国立公文書館の新館 展示室完成までのスケジュール（予定）



いけんひろばでいただいた意見は…**全て読んで**、反映できるかどうかなどを考えました！
似ている意見をまとめ、まとめた意見を次の4つに分類しました！

いけんひろばでいただいた意見の4つの分類

①展示基本設計に活用する意見



展示基本設計に活用しました！
どのように活用したのかp6に記載

②現在の本館に活用する意見



現在の本館に活用しました！
どのように活用したのかp7に記載

③既に対応済みの意見
(新館の建物・現在の本館)



既に対応されています！
どのような対応をしたのかp8,9に記載

④今後に活用を検討する意見



引き続き検討させていただきます！
どんな意見があったのかp10に記載



みなさんの意見

魅力のある展示に向けて

- 企画展は専門的で知識がないとわかりにくかったので、最初に資料全体について解説した導入用の動画などがあると展示を見たときに感動が伝わる。／新しい国立公文書館では学生にも公文書を見てほしいとのことだったので、国立公文書館に初めて来た人向けにどういうところなのか説明があるといい。
- 巻物に触れることがあまりないので、触ってみたいし、巻物を巻いてみたい。展示室でガラス越しで見た公文書も、実際に触れたら面白い。／筆で書いたものや、展示で見たような絵を触ってみたい。／何かが体験できる。

バリアのない展示に向けて

- 展示物に角度をつけて見やすくしてほしい。棚の高さを少し下げてこどもでも見やすくしてほしい。／バリアフリーになっているといい。
- スマホで二次元バーコードを読み取ると説明が表示されるのもよさそう。

いただいた意見の活用

- 常設展示室の冒頭に、公文書の重要性や公文書館の紹介、展示のガイダンスをする「**プロローグ展示**」を設けます。ここでは、壁面を大きく利用した、**インパクトのある映像演出**を行う予定です。
- 模型、引き出し型などの「**触れる展示**」、メディアウォール（検索可能なデジタル書架）を用意するなど、**体験型の展示が充実**する予定です。
- こどもや障がいのある方でも、観覧しやすいように、展示ケースの高さや展示物の位置、解説文字の大きさなどを工夫する予定です。
- 二次元バーコードを用いて、展示解説やおすすめのコース、多言語対応などを表示できるようにする予定です。



プロローグ展示のイメージ



「触れる展示」、観覧しやすい展示ケースのイメージ



メディアウォールのイメージ

今後の実施設計で詳細を検討し、着実に進めていきます。

みなさんの意見

- たとえば、公文書の保存のためにする「くん蒸」のような業務は、映像だからこそ紹介できることだと思うが、単語だけ出して説明が飛んでしまっていたので、もう少し詳しく教えてくれた方が魅力的だと思う。もっと詳細に説明したバージョンの動画も作ってほしい。
- 教科書で紹介して、まずは公文書について知ってもらう。
- 公文書を複製する作業をやってみたい。

いただいた意見の活用

- 令和7年度に、保存・修復業務に関する**中高生向けの学習コンテンツの制作を予定**しています。
- 教科書会社などが参加する**教育関係EXPO等に足を運び**、館所蔵資料等を教育の場で活用いただけるような、普及活動を行っています。
- 館主催ツアーでは、参加者オリジナルの花押作り体験を行っています。



学習コンテンツ普及のためのリーフレット



ツアー参加者が制作したオリジナル花押缶バッジ



新館においても、同様の取組を継続・拡大できるよう検討させていただきます。

みなさんの意見

- 展示スペースを広げたほうが良いのではないか。展示スペースが狭いと感じた。「もう終わりか」と思った。
- 気軽に行けるよう、多目的スペースをつくってほしい。
- おみやげショップは拡充してほしい。
- バリアフリーになっているといい。

いただいた意見への対応

- 新館では、展示スペース等として、現在の本館の約5倍の広さに拡大します。
- 新館では、カフェのような雰囲気で見ながらくつろげる明るい来館者用スペースが設けられます。
- 新館では、オリジナル商品を扱うショップを拡充する予定です。
- 新館では、バリアフリートイレ、性別に関係なく利用できる共用トイレの設置のほか、託児室、授乳室の設置も予定しており、多様な利用者の利便性に配慮します。



来館者用スペースのイメージ



新館の完成に向けて、着実に進めていきます。

みなさんの意見

- 公文書館は大人向けと感じた。大人が多い。難しい内容が多い。／こどもに読めない文字には、漢字にふりがなをふってほしい。
- キャラクターが登場する解説動画があると良いと思う。ショート動画のように短かったり、アニメーションでまとめたものが良い。
- 保管庫みたいな環境も見せる。／公文書の修復とあわせて、修復道具も見られたらいい。
- 国立の博物館・美術館と協力して、国立公文書館と国立の博物館・美術館を全部つなぐスタンプラリーを開催し、コンプリートした人に賞品があるようにすれば国立公文書館にも人が来てくれる。

いただいた意見への対応

- 特別展・企画展では、展示内容をこどもにもわかりやすくする工夫として、**「まなびシート」を用意**するなど、取り組んでいます。
- キャラクターの会話**で常設展示「日本のあゆみ」の展示内容が**学べる学習コンテンツを公開**しています。また、ひとつのテーマにつき、**ロングバージョンとショートバージョンの動画**を用意しています。
- 書庫内に入室するツアーを開催**しています。また、**バックヤードツアーでは、修復を行う様子や修復道具を公開しています。**
- 千代田区内のミュージアム連絡会議や、観光協会との連携、近隣の博物館等によるスタンプラリー（景品の提供あり）など、取り組んでいます。



学習コンテンツバナー



まなびシート



新館においても、同様の取組を継続・拡大できるよう検討を進めていきます。

みなさんの意見

【国立公文書館のことが知りたい！】

- 公文書は、毎年毎年増えていくので、保存場所が足りるのか心配になった。
- 公文書は膨大な量があるので、どういふものをデジタル化しているのか知りたい。
- 新館を作ったら現在の国立公文書館はどうするのか。
- 国立ではない公文書館はあるのか。
- 外国の公文書館など、国立公文書館の他にある公文書館とはどのような機会に交流しているのか。

【公文書の修復について知りたい！】

- 公文書の修復のしかたが気になる。
- 文書の修復作業について、どこまで修復するか気になった。昔の文書は紙が破れているものもあると思うので、どうするのか。
- 消えたり、ちぎれたりしている文書をどういふ作業工程や作業予定を組んで修復しているのか気になった。
- 修復をするためには資格が必要なのか。資格があるならどうしたら取得できるのかも知りたい。

【展示内容の理解を深めるために】

- 昔の言葉で書いてある本物やレプリカの資料と、教科書に載っている現代語訳の文章とを見比べられると、書いてあることが伝わる。

魅力の向上に向けて

バリアのない展示見学の実現に向けて

【国立公文書館のことを知ってもらうには】

- みんなに覚えてもらうためのイベントを開催するのが良いのではないか。
- 国立公文書館と大手企業のコラボ。
- 国立公文書館はどのような企業と連携しているのか
- 国立公文書館をもともと知らなかったから、色々な人に知ってもらうために何をしているか知りたい。

- 面白い特別展示があったら見に行き、ついでに常設展示も見ることになると思うので、特別展示を充実すると良い。
- 企画展のテーマをどう決めているか気になる。

- 「令和」の書をもって自分も同じポーズができるフотスポットのような展示があると良い。

- 学校で学ぶ人物を中心とした展示があると「この人が書いたものか」「あの人がやったものか」と身近に思えそう。展示と自分が持っている知識とが繋がる。

- イヤホンガイドがあるといい。公文書に関する裏話や面白い話を入れておくともっと楽しめそう。

**実施設計、展示の解説内容、開館後のさまざまな取組の中で、
いかせるよう検討を進めていきます。**



1. 内閣府HP

「新たな国立公文書館について」

<https://www8.cao.go.jp/chosei/koubun/shinkan/shinkan.html>

「魅力ある新国立公文書館の展示・運営の在り方に関する検討会（第13回）」

<https://www8.cao.go.jp/chosei/koubun/miryoku/20250303haifu.html>

2. 国立公文書館HP

「トップページ」

<https://www.archives.go.jp/>

「学習コンテンツ」

<https://www.archives.go.jp/learning/>

「見学ツアーのご案内」

https://www.archives.go.jp/about/activity/application_tour.html

